

2025年度 OIT MDASH（リテラシー）自己点検評価 総括表

1.学内からの視点での点検・評価

No	評価項目	評価の観点 評価基準	点検結果/評価結果		評価レベル 評価レベル
			内容	測定ツール	
1	プログラムの履修・修得状況	学生の履修状況の分析が実施できているか。	本プログラム開始4年目を迎える今年度において、収容定員に対する履修率は引き続き100%（延数）を上回り、良好に推移している。特に、入学初年次生の履修率が98～99%であることが、全体の履修率向上に寄与している。	履修・成績データ	A
2	学修成果	学修成果を測定する仕組みを整え活用しているか。	シラバスでは授業計画で何を学ぶかを具体的に示し、適切な到達目標を設定している。独自アンケートでは、該当する授業回の理解度を問う設問により、学修成果を把握し、教学推進委員会および各学部教務委員会で評価・改善に活用している。	独自アンケート 【理解度を問う「設問1」】	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生の理解度を確認しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の理解度を問う設問により、学生の理解度を把握している。アンケート結果では「よく理解できた」「ある程度理解できた」と回答した学生が全学部平均で8割超となったほか、肯定的な意見が確認され、概ね理解できていると考えられる。	独自アンケート 【理解度を問う「設問1」】	A
4	学生アンケート等を通じた後輩などの学生への推奨度	MDASHに対する重要度を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の重要度を問う設問により、本教育プログラムを通して学んだことを後輩に伝え、推奨していく期待度を確認している。アンケートでは、OIT MDASHに関係する授業回の受講前後と比べ、重要性の認識が高まったかについて問い、「かなり高まった」「ある程度高まった」が全学部平均で8割超を占め、後輩に伝え受講を推奨していくことに期待ができる結果となった。	独自アンケート 【重要度を問う「設問3」】	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を確認できているか。また、学生に教育プログラムの履修を促す取り組みが行われているか。	履修率向上には、初年次の段階でいかにMDASHに対する認識を持たせるかが重要であり、今年度も入学時当初の新入生ガイダンスにおいて案内冊子の配付・説明を実施し、原則履修の周知および認知度の向上に努めた。	履修・成績データ	A
6	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解の浸透	MDASHに対する興味・関心度を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の興味・関心度を問う設問により、興味・関心度を把握している。アンケート結果では「かなり高まった」「ある程度高まった」が全学部平均で8割弱を占める結果となり、学生の興味・関心が概ね高い水準で推移していることが確認できた。これらの結果は、授業内容の振り返りや改善の検討に活用している。	独自アンケート 【興味・関心度を問う「設問2」】	A
7	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業の「分かりやすさ」の視点に立った学生の反応を把握しているか。	本教育プログラム受講者全員に対して実施している独自アンケートの該当する授業回の授業の分かりやすさを問う設問により、学生の反応をダイレクトに収集している。アンケート結果では「強そう思う」「ややそう思う」が全学部平均で8割弱を占める結果となり概ね肯定的な結果となっている。加えて、当該授業に関する「良かった点や改善してほしい事項」を問う設問も用意し、真摯に向き合う姿勢を示している。アンケートの回答内容は、すぐに改善・対策ができるよう、アンケート回答期間終了日に授業担当教員が確認できる体制を構築している。また、集計結果は各学部教務委員会および教学推進委員会にも共有し、プログラム全体の内容・水準向上に向けて取り組んでいる。	独自アンケート 【授業の分かりやすさを問う「設問4」】 【改善要望の有無・内容を問う「設問5」】	A

2.学外からの視点での点検・評価

No	評価項目	評価基準	内容	測定ツール	評価レベル
8	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	本学では、自己評価・IR委員会の小委員会において外部評価委員を加え、産業界の視点を含めた教育課程の検証が行える仕組みを整備している。本教育プログラム（リテラシーレベル）は2022年度から一斉実施しているものの、修了者を輩出する年度は2025年度末であり、現時点ではデータの集約中のため修了者の進路・活躍状況等について適切な評価が可能となる段階には至っていない。 一方で、将来的な評価に向けて、「卒業生アンケート」（卒業後3年目対象）や「企業アンケート」に関連する設問を設定しており、産業界のニーズや修了者に対する評価を把握する仕組みを整備している。これにより、プログラム修了者を輩出する前段階においても、可能な限り企業等のニーズの把握に努めている。今後は、修了者の輩出に合わせてこれらのデータを体系的に収集・分析し、教育プログラムの改善に反映していく予定である。	企業評価アンケート、卒業生・修了生アンケートにMDASHに関する設問を設定。 設問内容 企業評価アンケート： 在学中に適宜力を活かしているかを問う選択肢に「数理的思考力とデータ分析・活用能力（数理・データサイエンス、情報科学など）」を設定。 卒業生・修了生アンケート： 在学中にどの程度能力が身についたかを問う選択肢に「数理的思考力とデータ分析・活用能力（数理・データサイエンス、情報科学など）」を設定。	A
9	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	外部者による検証が実施されているか。	本学の教育の質保証にかかる自己点検・評価では、外部評価委員会を設置し年1回定期的に実施しており、本教育プログラムも同委員会に諮り評価や意見を収集している。 外部委員からは、「同プログラムを通じて理系人材を育成・輩出し、社会で活用していく観点から、基本的には社会に求められる水準に到達していることが「A評価」に相当すると考えられる」等の肯定的な意見をいただいた。得られた意見については教務委員会を通じて全学的に共有し、更なる改善を図っていく。	自己評価・IR委員会小委員会 【教学推進委員会実施した本教育プログラムの自己点検結果への評価を問う項目を含める】	A

【評価レベル】

- A 評価基準に示している内容について、優れた点があり、十分に行われている。
- B 評価基準に示している内容について、概ね行われており、相応である。
- C 評価基準に示している内容について、改善の必要がある。